

産婦人科の診療について

01



日頃は当院の診療にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。既にお伝えしておりましたとおり、当院は2025年12月末を持ちまして、分娩施設としての役割を終え、新たなステージへ踏み出しました。患者様から様々な反響がございます。「親子三代、出産でお世話になりました！お産がなくなっちゃうなんて寂しいです！」そんなお言葉を頂くのは一度や二度ではありません。当院が愛されてきたことを実感します。「お産がなくなって、産婦人科の診察もなくなるのかと思いました！」こんな勘違いのお言葉も頂きます。安心してください。診療科としての産婦人科はなくなりません。



一方、長年、当院を支えてこられました千原啓先生は2026年3月末をもってご勇退となりました。先生は昭和59年に当院へ赴任されてから、実に40年以上もの間、当院一筋で第一線を走り続けてこられました。(敬意と感謝を込めて)「千原先生、これまで本当にありがとうございました。」新しい体制では外来診療が中心となります。妊婦健診については、引き続き行っております。八事日赤病院と連携した『やごと周産期ネットワークシステム』をご利用の方や里帰り出産(近隣分娩施設を含む)を希望される方が対象です。まだ分娩先が決まっていない妊娠初期の方の受診も、もちろん可能です。当院では、キッズスペースや授乳室があり、子連れでも受診がしやすい環境で、妊婦さんには特に好評をいただいております。

産婦人科 荒木 雅子

マンモグラフィーについて

02



マンモグラフィ検査は、乳がんの早期発見に欠かせない大切な検査のひとつです。当院では2025年10月より装置を新しく更新し、従来よりも高画質で、痛みの少ない検査が可能となりました。撮影時には上半身を脱いでいただくため、羞恥心を感じやすい検査ではありますが、少しでも安心して受けていただけるよう、当院では女性技師の対応も行っております。

乳がんは、日本では女性の9人に1人が罹患するといわれており、女性のがん罹患数では第1位です。30歳頃から増加し始め、40代後半から60代後半にかけてピークを迎えます。また、AYA世代(15~39歳)では発生率は低いものの、発症した場合は進行が早い傾向があります。さらに、70代以降も決して発症率が低いとはいえません。なお、男性にも約1%と稀ではありますが発症します。

名古屋市では、40・45・50・55・60歳の女性に無料クーポンが発行されており、その間も2年に1度、自己負担500円で検査を受けることができます。

「痛いから」と敬遠されがちな検査ではありますが、乳がんは早期発見が何よりも大切です。まずは定期的な健診を心がけ、少しでも違和感を覚えた場合は、年齢や性別にかかわらず乳腺外来へご相談ください。

放射線技術科 松代 英里佳

常勤医採用のご案内

03

2026年1月に新たに常勤医を迎えました。よろしくお願いいたします。



放射線科
伊藤 雅人
役 職：放射線科診療科部長
専門領域：放射線診断学(画像診断)



眼科
梅村 茉依子
役 職：眼科医長
専門領域：一般眼科

聖風

せいふう

2026.3月号

26

発行責任者/院長 春田 純一 ●編集/総務課 広報係

社会福祉法人聖霊会
聖霊病院
HOLY SPIRIT HOSPITAL
〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
Tel: 052-832-1181
https://www.seirei-hospital.org

理念

「愛と奉仕」
地域医療を通してキリストの愛
をもって人びとに奉仕します。

基本方針

- ・患者さん中心の思いやりのある医療を行います。
- ・人権尊重に基づいて患者さんの価値観に配慮した全人的医療に努めます。
- ・医療人として資質向上に努め、良質で安全な医療を実践し、信頼される病院をめざします。
- ・地域医療連携を推進し、地域の方々の医療と福祉の向上に貢献します。
- ・カトリック医療施設として、すべてのいのちを大切にします。



牧歌の里(岐阜県郡上市) 事務部 幾田和男 撮影

誰かの為に



理事長
内海 眞

中学時代に登校拒否をした私の娘の事を書きます。登校拒否は突然でした。そのうち改善するだろうと思っていましたが、その期間が1か月を超えると流石に心配になります。朝一緒に中学校まで連れて行く事もありましたが、頑として門をくぐりません。拒否の理由は幾つかありましたが、それらを許容する事を断固拒否するのです。困り果てました。ある時私が「他に登校拒否の生徒はいるの？」と問いますと、「一人いる」と答えます。「だったら、その子の味方はお前しかいないのでは。」と話すと、何と翌日から登校を再開し、その後は一度も休む事なく出校しました。人は自分の為ではなく他者の為と決意する時、強くなるものですね。

TOPICS「第19回ホスピス聖霊講演会開催について」



松浦 悟郎
カトリック名古屋教区司教

2026年2月28日土曜日、聖霊ホールにて、第19回ホスピス聖霊講演会が行われました。講師として、カトリック名古屋教区、松浦悟郎司教をお招きし、「いのちに向き合う～生と死の狭間で～」というテーマでお話をいただきました。

ホスピス聖霊講演会は、地域の方々にホスピスへの理解を深めてもらうこと、ホスピス・緩和ケアを広く知ってもらう機会として毎年この時期に行われています。

今回は、松浦司教が講師ということもあり、地域の方々だけでなく、カトリック信者さんの応募も多く、予定していた100名を大幅に上回る130名ほどの申し込みがあり、大盛況となりました。

お話の中で、「わたしたちは常に生と死の狭間にいる」ということがどんなに深いことか、あらためて考えさせられました。いのちの尊さ、大切さを感じ、与えられた使命を心に留め日々過ごしていきたいと思いました。

ホスピス病棟 松川 幸江

「産婦人科」のホームページが見やすくなりました。



聖霊病院ホームページ内の「産婦人科」をリニューアルしました。診療についての紹介の他、『産後ケア』や『4Dエコー』の内容や予約方法をご確認いただけます。また、当院の助産師達が築きあげた安産教室の資料をまとめた『安産教室アーカイブス』は、聖霊病院産婦人科のレガシーです。既に教室の開催はありませんが、これから出産される全ての妊婦さんにとって有用な情報が満載です。是非、「産婦人科」をクリックして覗いてみてください。



産婦人科トップページ
QRコード

産婦人科 荒木 雅子

日帰り産後ケアのご案内



2025年12月末に分娩の取り扱いが終了し、「産婦人科も終了したのでは？」と思われている方もいらっしゃるようです。当院では2026年1月より体制をリニューアルし、産婦人科外来や母乳外来だけでなく、日帰りの産後ケアも実施しています。現在は水曜・木曜日限定（祝日除く）でご利用いただけます。出産後は、慣れない育児や睡眠不足などで心身ともに疲れがたまりやすい時期です。「ゆっくり休みたい」「助産師に育児や授乳のことを相談したい」という時にぜひご利用ください。最近では上の子の保育園の合間や育児休業中のパパの息抜きの時間に合わせて利用される方もいます。助産師が寄り添いながらご希望に合わせたプランと一緒に考え、快適に過ごせるよう支援させていただきます。

利用された方から「ゆっくり休むことができた」「丁寧にお世話してもらえて安心できた」など温かいお言葉もいただいています。

名古屋市産後ケア事業のチケットでお値打ちにご利用いただけます。詳細は当院ホームページをご覧ください。



産後ケアのページ
QRコード

外来 服部 美帆

「胎児4Dエコー～お腹の赤ちゃんに会いませんか？～」



胎児4Dエコーは、お腹の赤ちゃんの様子を立体的、かつリアルタイムにみることが出来ます。当院では妊婦様だけでなく、ご家族皆様でご来院いただき一緒に画像をご覧いただける4Dエコー外来を開催しております。エコー画像はカラー写真にてお渡し、さらに希望される方にはUSB録画も可能です。2026年2月より開催日よりフレキシブルに、対象者も拡大し、当院で妊婦健診を受けていない方もご利用できるようになりました。ご予約、お待ちしております。詳しくは、当院ホームページ・産婦人科内の「4Dエコー」をご覧ください。



胎児4Dエコーのページ
QRコード

臨床検査技術科 京江 逸静

花粉症治療について（アレルギー性鼻炎）



アレルギー性鼻炎は、鼻の粘膜がアレルギーの原因となる物質に反応して、くしゃみ・鼻水・鼻づまりが起きる病気です。季節性：スギ花粉など、決まった時期に症状が出るタイプと、通年性：ダニ・ハウスダストなど1年を通じて症状が出る、2つのタイプがあります。飲み薬や点鼻薬は、アレルギー性鼻炎の症状を一時的に和らげるものです。

舌下免疫療法は、アレルギー体質そのものを改善することを目指す治療です。スギ花粉やダニの成分毎日少量ずつ体に取り入れ長時間続けることで、からだに反応しにくくなる状態をつくり、アレルギー性鼻炎の症状が出にくくなります。



治療期間は3年～4年、治療後再発時はさらに1年追加します。有効率は8割程度、症状が完全に抑えられない場合でも症状を和らげ、抗アレルギー剤の使用量を減らすことができます。5歳以上でお薬を舌の下におき1分間保持した後に飲み込める方はこの治療が可能です。抗アレルギー剤で効果が不十分な方、抗アレルギー剤の眠気がつらい方、運転する方、妊娠を予定している方、舌下免疫療法を希望する方は、耳鼻咽喉科にご相談ください。

耳鼻咽喉科 今村 はつ江

花粉症治療（アレルギー性結膜炎）



アレルギー性結膜炎は、花粉やハウスダストなどのアレルギー物質により引き起こされる目のさまざまなアレルギー疾患です。ハウスダストやダニなどが原因となる通年性アレルギー性結膜炎や、スギやヒノキなどの花粉による季節性アレルギー性結膜炎（花粉症）などがあります。主な症状には、目やまぶたのかゆみ、充血、目の違和感などがあります。

ウイルスや細菌が原因の結膜炎もあり、これらはアレルギー性結膜炎と似た症状を引き起こすことがあります。そのため、結膜炎の症状が現れた場合は、眼科を受診することをおすすめします。

予防のポイントは、アレルゲンを避けることです。花粉情報をチェックし、花粉が多い時期や時間帯には外出を控えたり、外出時にはサングラスやマスク、帽子などを着用して花粉との接触を避けると良いでしょう。室内の花粉の量を減らすためには、こまめに部屋の掃除を行うことも効果的です。

治療には、抗アレルギー作用や抗ヒスタミン作用のある点眼やアイクリームによる薬物両方が中心となります。症状がひどい場合には、ステロイド点眼薬が使われることもあります。花粉症の時期はつらいこともありますが、適切な予防と治療によって症状を和らげることができます。



眼科 梅村 茉依子